



新港ふ頭地区



那覇港全域

◎コンテナターミナル工事経過

平成元年12月	9号バース工事着工
平成9年8月	9号バース供用開始
平成9年12月	10号バース工事着工(地盤改良)
平成11年3月	中仕切り堤(鋼矢板護岸)完成
平成11年4月	ガントリークレーン1号機稼働
平成15年5月	岸壁ケーソン据付完了(外周完成)
平成16年7月	「国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保に関する法律」に基づく制限区域に指定(9号バース)
平成16年9月	ガントリークレーン2号機稼働
平成16年11月	舗装工事着手
平成16年12月	ターミナルの運営事業者として「那覇国際コンテナターミナル株式会社」を那覇港管理組合が認定
平成17年3月	構造改革特別措置法に基づき「那覇港国際物流特区」に認定
平成17年12月	10号バース工事完了
平成18年1月～	10号バース供用開始(那覇国際コンテナターミナル(株))による9号・10号バースの一体的運営



三宅光一那覇港湾・空港整備事務所長による工事経過報告



稲嶺恵一那覇港管理組合管理者(沖縄県知事)による式辞



関係者によるくす玉回披



関係者によるテープカット



開発建設部

那覇港公共国際コンテナターミナル供用開始

特集4

1 日本初、完全民間企業による「国際コンテナターミナル運営」がスタート！

平成十八年一月一日、那覇港公共国際コンテナターミナルが供用開始されました。同ターミナルは、平成十七年三月、構造改革特別区域法に基づき「那覇港国際物流特区」の認定を受けており、世界規模でコンテナターミナルの運営を手掛けるフィリピン企業(ICTSI International Container Terminal Service Inc.)と県内主要港運六社で設立された「那覇国際コンテナターミナル株式会社(NICTI Naha International Container Terminal Inc.)」に対して、新港地区九号・一〇号岸壁を一体的に十年間貸し付け、同社にその運営が委

ねられることになりました。国際コンテナ貨物のトランシップ(積み替え)事業の拠点となる同ターミナルは、構造改革特区を活用したグローバルオペレーター主導の完全民間企業による「国際コンテナターミナル運営」としては日本で初めてとなります。これにより、ターミナルの効率的な運用を図り、サービス水準の向上、港湾コストの低減を実現し、国際競争力の向上、さらには背後地への産業立地が促進され、地域経済の発展及び雇用の拡大に寄与することが期待されています。

◎コンテナターミナル施設概要

那覇港公共国際コンテナターミナル	9号岸壁	10号岸壁
供用開始	平成9年度	平成17年度
岸壁延長	300m	300m
奥行	350m	350m
計画水深(実水深)	13m(14m)	13m(15m)
取扱可能コンテナ量(試算)	450,000TEU/year	
ターミナル面積	208,800㎡	
ガントリークレーン	(2基40t吊り)	
ターミナルオペレーター	那覇国際コンテナターミナル株式会社 Naha International Container Terminal, Inc.(NICTI)	

(平成17年12月現在)

◎那覇港公共国際定期コンテナ航路一覧表

	寄港地	船名	総トン数	船社	代理店	運航回数
北米航路	オークランド(米国)、グアム(米国)、那覇、青島(中国)、釜山(韓国)、横浜、ロサンゼルス(米国)、オークランド(米国)	PRESIDENT GRANT 他4隻(フルコンテナ船)	47,893	APL	琉球物流	1/週(金)
台湾航路	高雄(台湾)、那覇、志布志、門司、水島、宇部、大分、細島、高雄(台湾)	COLOMBO 他1隻(フルコンテナ船)	5,070	APL	琉球物流	1/週(土)
台湾・韓国・香港・ベトナム航路	高雄(台湾)、仁川(韓国)、門司、光陽(韓国)、那覇、高雄(台湾)、香港、高雄(台湾)、ホーチミン(ベトナム)、高雄(台湾)	MAERSK EDINBURGH 他2隻(フルコンテナ船)	6,704	マースク・シーランド	マースク	1/週(月)
台湾・上海航路	基隆、台中(台湾)、石垣、上海、那覇、基隆、台中(台湾)	BLUE STER 他(フルコンテナ船)	7,073	HASCO	沖縄国際海運	1/2週(火)
大連・天津航路	上海、青島、天津、大連、那覇、高雄(台湾)、基隆(台湾)、石垣、上海	TAI CHUANG (フルコンテナ船)	18,070	SINO TRANS	沖縄国際海運	1/2週(水)

(平成18年1月現在)